

2017 年度「災害地の子どもたちの学びや育ちの支援活動助成」 助成団体選考結果のご報告

2017 年度「災害地の子どもたちの学びや育ちの支援活動助成」につきまして、助成団体が決定いたしましたので、ご報告いたします。

今回の助成について(第 3 回概要)

募集対象	被災した地域に暮らす子どもたちおよびその保護者などを対象に子どもの学びや育ちの支援に取り組む団体の活動
募集期間	2017 年 11 月 20 日～2018 年 1 月 5 日
助成金総額	2,000 万円以内
応募数	52 件
採択事業数	8 件(東日本大震災対象 7 件 熊本地震対象 1 件)
金額	計 15,199,050 円
助成対象となる活動期間	2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日
助成選考委員会	助成選考に際しては、本テーマに関して専門的知見を持つ 4 名の助成選考委員(当財団理事 1 名と外部有識者 3 名)で組織する助成選考委員会にて、当財団の助成目的に基づき、厳正な審査を行った。

助成選考委員長より

2017 年度の本助成テーマにおいては、昨年に引き続き、2011 年の東日本大震災で大きな被害を受けた東北 3 県(岩手・宮城・福島)、および、2016 年の熊本地震で被害を受けた地域の子どもたちを支援する団体の活動を対象に助成を行うこととしました。

選考では、自らの地域の課題を捉えた活動であること、助成終了後も含めた事業継続への見通しがあることを重視しながら、団体と活動の地域との関わりや影響力なども考慮して選考を行いました。

今回の応募内容を俯瞰すると、地域ごとにスピードは違うものの、復興のフェーズが進んでいくなかで、被災以前から地域にあった少子化、過疎、子どもの貧困などの普遍的な課題に、各団体が向きあうことになってきた状況が伝わってきます。

それらの地域課題が被災によって予想を超えたスピードで顕在化・深刻化するなかで、各団体においては従来の復興支援文脈による支援の枠組みと、いま現在の課題意識との整合性をとりつつ継続的な事業環境をつくっていくことに苦慮している模様が伝わってきます。

今回は計 8 件の事業を採択しましたが、当助成でも現在の被災地の環境を踏まえて、地域のニーズにあった今後の支援のあり方を考えていくべき時期と感じています。

公益財団法人ベネッセこども基金
理事・助成選考委員長

耳塚寛明

助成先団体および助成対象となる事業

No.	団体名(50音順)	事業名	都道府県	助成額(円)
1	特定非営利活動法人アスイク	多賀城市におけるケアワーク型居場所の運営とノウハウ移転	宮城県	2,000,000
2	Wendy いわき	子育て世代を対象とした食育交流・相談会の開催	福島県	465,000
3	一般社団法人子どものエンパワメントいわて	平成 29 年度「学びの部屋」リニューアルプロジェクト	岩手県	2,000,000
4	特定非営利活動法人さくらネット	子どもによる震災体験の語りつぎによりそう～熊本地震「心のケアと一体的に進める防災教育」のネクスト～	兵庫県	2,000,000
5	特定非営利活動法人3.11こども文庫	こども文庫『にじ』の運営と絵本のつどい、アートワークショップの実施	福島県	1,992,050
6	一般社団法人 Bridge for Fukushima	高校生向け次世代リーダー育成事業～PBL(プロジェクト型学習)及び実践型インターンを用いた人材育成～	福島県	2,742,000
7	一般社団法人まなびの森	宮城県山元町の子どもたちを対象とした学習支援事業	宮城県	2,000,000
8	特定非営利活動法人亙理いちごっこ	亙理こどもサポート事業	宮城県	2,000,000
合計				15,199,050

特定非営利活動法人アスイク	
URL	http://asuiku.org
申請事業名	多賀城市におけるケアワーク型居場所の運営とノウハウ移転
メッセージ	<p>全国的にこども食堂が広がっていますが、私たちは東日本大震災で被災し、災害公営住宅で生活をされている親子などが週1回の食事を通して、気軽に集える居場所を運営しています。住居支援が落ち着いていく一方で、日常生活ではなかなか話しにくいお金のこと、子育てのことなどを打ち明けられる場所は少なくなってきました。私たちが運営している居場所が、子どもにとって親にとっても、大事な息抜きの場になると同時に、外から見えにくい悩みをすくい上げる場所となることを目指していきます。同時に、そこで得たノウハウを他の地域で活動されている方々へも広げていきます。</p>

Wendy いわき	
URL	http://www.to-ho-net.co.jp/wendy/
申請事業名	<p>地区別食育交流・相談会の開催</p> <p>～子育てコンシェルジュ、母子保健コンシェルジュの利用促進と子育て世代と支援者の地域コミュニティづくり～</p>
メッセージ	<p>震災から7年が過ぎました。</p> <p>「震災前に戻れたら」と何度となく思ったこともありました。</p> <p>いわき市内での子育て支援団体として今年で11年を迎えます。お子さんの成長により密に関わる時期は3歳～4歳までが多く、その時期の世帯は子育てに一喜一憂しながらの日常があります。お子様の一時的なお預かりで子育ての合間のリフレッシュ時間としてまた大切な用を済まされることも少なくありません。</p> <p>その中で、それぞれの抱えるお悩みなどは簡単にお聞きすることはできませんでした。</p> <p>昨年6月よりいわき市にてスタートした「おやCOCO」＝出産・子育て総合支援事業が対象とされているご家庭へも周知をし、子育てコンシェルジュや母子保健コンシェルジュへ繋ぐ活動もしています。</p> <p>この助成事業では、相談がしやすくなるような「食う＝工夫」を組み込み、一緒に過ごした時間が参加者や支援者にとって、今後の生活に必要な情報の交換の場にします。これからも皆さんの抱えるお悩みの一助になれるようスタッフ一丸となり活動いたします。このたびはご支援を賜りありがとうございました。</p>

一般社団法人子どものエンパワメントいわて	
URL	http://www.epatch.jp/
申請事業名	「学びの部屋」リニューアルプロジェクト
メッセージ	<p>「学びの部屋」事業は、東日本大震災により被災した岩手県沿岸地域において、自学自習を基本とした、寄り添いによる学習支援を継続しております。昨年度より実施している参加した生徒による自己評価表「振り返りシート」から、独自の評価・検証を実施した結果、(1)生徒が安心して学習に集中できる場を提供している、(2)生徒が目標をもって学習管理を行うよう促している、(3)生徒にとって「分からないことが分かる」場となっていることや支援員においては「よりそい」「コミュニケーション」によって生徒を支えていることが可視化されました。</p> <p>今後は、これまでの学習支援のノウハウに加え、新たな学び育ちの人的環境に焦点をあてた支援を展開し、子どもたちが変革していくチャンスの創出を目指してまいります。</p>

特定非営利活動法人さくらネット	
URL	http://npo-sakura.net/
申請事業名	子どもによる震災体験の語りつぎによりそう ～熊本地震「心のケアと一体的に進める防災教育」のネクスト～
メッセージ	<p>平成 28 年熊本地震発生以降、学校再開支援、心のケアと一体的に進める防災学習を続けてまいりました。子どもたちと話す中で、「自分たちの体験と向き合いたい」、「語りたい」という声が聞かれるようになりました。地震から 3 年目となる今年度は、若者の様々な語り継ぎの取り組みを応援していきます。適切な時期の振り返りは、心のケアの一環になります。また、語り継ぐ活動は、未来の生命を守る一助になると考えています。今後とも応援よろしくお願い申し上げます。</p>

特定非営利活動法人3.11こども文庫

URL <http://www.311bunko.com/>

申請事業名 こども文庫『にじ』の運営と絵本のつどい、アートワークショップの実施

メッセージ

皆様、はじめまして。

少しだけ、私達の紹介をさせていただきます。

私達は、東日本大震災後、絵本や画材を募集し、国内外から集まった児童書は 15,000 冊に達しました。震災後は、福島県相馬市の避難所に絵本や画材を届け、絵画等のワークショップを実施していると、子ども達が描いた絵は約 300 点になりました。

その絵を「ふくしまそうまの子どものえがくたいせつな絵展」として、全国の支援団体にご協力をいただきながら、全国各地で展覧会を実施しました。その様子は、子ども達の絵とともに「ふくしまの子どもたちが描く、あのとき、きょう、みらい」(徳間書店より刊行)でご覧いただけます。

2012 年 9 月、皆様のご寄附や助成金を原資に、福島県相馬市に念願のこども文庫“にじ”を設立しました。毎週 3 日の開館を行い、一ヶ月約 100 人の、地域の子供達やその保護者などの集う場となっています。元教員や児童相談員出身のスタッフが“にじ”に集う子ども達への支援やその保護者の相談にのるなど、地域コミュニティの拠点のひとつとなっています。

今回、皆様にご支援いただき、下記の事業を実施させていただきます。

- ① こども文庫“にじ”の運営。開館日時 4 月～3 月、週 3 日(日・火・木)10 時～16 時。
震災時に寄贈された絵本等や追加した絵本等に広く親しんでもらう機会を提供し、読書に親しむ機会を拡充する。お絵描きや工作等は随時実施。
- ② 「こぼこ文庫」市内全小学校低学年に展開して、学級文庫を補っていく。
こぼこ文庫 50 箱以上(1 箱 20 冊程)。配置 4 月、回収 3 月。
- ③ 絵本の集い(ブックトーク) 毎月 1 回、最後の日曜日、文庫で開催する。
読み手としてジュニアリーダーの育成も併せて行う。
- ④ アート中心のワークショップを開催し、子ども達に多様な経験の場を設け、子ども達の自己実現の場と方法を考えさせる機会とする。
(年 6 回予定)
- ⑤ 隔月広報紙「にじだより」(既刊 31 号)3,000 部印刷・市内全小学校、幼稚園、保育所等へ配布して“にじ”の活動を広く周知を図る。

皆様のご支援、本当にありがとうございます。どうぞ、私達の活動を今後とも見守っていただければ幸いです。

一般社団法人 Bridge for Fukushima	
URL	http://bridgeforfukushima.org/
申請事業名	高校生向け次世代リーダー育成事業 ～PBL(プロジェクト型学習)及び実践型インターンを用いた人材育成～
メッセージ	<p>この基金に寄付を頂いた皆様に心より御礼申し上げます。</p> <p>震災から7年が経過し、福島は日々復興に向けて取り組みを行っているところですが、福島第一原発の事故を起因とした人口減少に伴う2次的被害、また風評被害においても2017年末においても15%の首都圏消費者は福島産の農作物を購入しないという現状、先細る復興人材と資金不足などまだまだ復興への道のりは道半ばでもあり、今後真の復興までは20年ほどかかるとも言われています。</p> <p>本事業はPBL(プロジェクト型学習)の手法を用いて、高校生たちが関心を持った復興課題・社会課題に対して、その課題の原因を考え、解決策の仮説を立て、事業を実施することで、高校生の能力強化を図るとともに、将来的に社会において活躍できる人材を被災地福島から輩出することを目的としています。</p> <p>現在年間80名ほどの福島県内の高校生が本事業に参加しており、活動を10年続けることで900名ほどの関心の高い10～20代の若者をつなげるハブ組織を構築することを目的の1つと考えています。</p> <p>本事業は、3つの活動から構成される事業です</p> <p>1つ目は、高校生のためのコミュニティスペースを運営し、プロジェクト計画及び実施のための相談を行います。また事務所スペースを解放し高校生の居場所づくりを行うと共に、大学生を中心としたサポートメンバーが高校生のメンターの役割となって高校生のサポートを行います。</p> <p>2つ目は、プロジェクトの実施を促進するためのイベント、高校生同士でピアでのプレスト会議、そして理論的にプロジェクトを考えるためのロジックモデル合宿の実施、そして今年度は、昨年度の活動をバージョンアップし、3つ目の活動として、高校生向け実践型インターンの事業を実施いたします。</p> <p>3つの活動がそれぞれに作用しあい、福島の社会課題・企業課題に実践的な活動を通じてPDCAを回し、また地域の高校生同士・サポートしてくれる大学生や大人たちとのネットワークを構築することで、福島県人材を輩出し、復興に寄与していきたいと思っております。</p> <p>今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。</p>

一般社団法人まなびの森	
URL	http://www.s-1.jp
申請事業名	宮城県山元町の子どもたちを対象とした学習支援事業
メッセージ	<p>震災から7年が経過し、宮城県山元町では復旧後の新たな町と暮らしが姿を現し始めました。鉄道の復旧から1年以上が経過し、生活環境も随分整ってまいりました。改めて震災からの時間の経過と、その間に積み重ねられてきた現地の方々の努力、そして全国から寄せられた物心両面わたる暖かな支援の大きさを感じております。</p> <p>一方、子どもたちとその背景にある家庭の状況に目を転じた時、平常を取り戻すことができた方々と、未だ課題や困難を抱えたままの方々の乖離が進みつつあることを感じます。現地の状況の変化に応じた柔軟な対応、新たな取り組みの創出が絶えず欠かせないのだと考えております。</p> <p>今回賜った助成金は、主に学習支援の現場で使用する教材類の財源として活用させていただきます。学習支援の内容を向上させるために大きな支えとなります。このような機会をいただいたことに心から感謝申し上げます。</p>

特定非営利活動法人亘理いちごっこ	
URL	http://ichigokko.org https://www.facebook.com/watari.ichigokko/
申請事業名	亘理こどもサポート事業
メッセージ	<p>【地域コミュニティは大きな家族】を理念とし、東日本大震災をきっかけに立ち上がりました。コミュニティ・カフェレストラン、いちごっこお話を聞き隊(傾聴活動)、寺子屋いちごっこ(学習支援及び子どもたちの居場所づくり)を3本の柱に、そしてそれら NPO 活動を下支えする製造事業活動を行ってきました。</p> <p>子どもたちの学習サポート「寺子屋いちごっこ」も7年間継続して行ってきました。被災家庭や、ひとり親家庭、一般児童生徒が集まり勉強だけではなく、様々な経験を通して地域の中で育ててもらっています。この学習サポートにおいて大きな柱となっているのは、東北大学学内サークル<サークルいちごっこ>。学生たちが自主的に立ち上げ、当方スタッフを支え、常に活動をサポートしてくれています。</p> <p>地域の子どもたちを地域の住民みんなで見守ること、そこに被災地域が抱えるこどもの課題を解決していく糸口があると考えます。貴助成をいただき、被災地域における子どもたちを見守り育てることが出来ること、心より感謝申し上げます。より確かな活動としていくことが出来るよう取り組んでまいります。</p>